

愛媛大学農学部  
山口大学農学部  
森林総合研究所  
愛媛大学農学部

○江崎次夫・岩本徹  
丸本卓也・河野伸之  
岡部宏秋・藤久正文  
井上章二・車斗松  
河野修権・雨

江原大学校  
山林科学大学

1. はじめに

地球の緑化資源を蘇らせ鹿児島方法とのして、植物の成長促進に役立つ立地条件を共有する。このため、実験的に用いた。13年と根をさす。

地球の緑化資源を蘇らせ鹿児島方法とのして、植物の成長促進に役立つ立地条件を共有する。このため、実験的に用いた。13年と根をさす。

2. 実験方法

2. 1 (実験1) : 水分を与えたり紙上で発芽したクロマツを直径11cmのポットに  
 充填した培養土(細菌資材)を市販されたポットに測定した。

2. 2 (実験2) : 実験1と同じ培養土に発芽したクロマツを植栽した。菌根資材はBを用い、この実験では、木酢液+菌根資材を150日間実施し、その後、掘り取り、苗長を測定した。

3. 結果および考察

3. 1 : 植栽後、80日目に掘り取り、根を測定した。結果は、図-1に示すように、菌根の有無による差は認められなかった。菌根の有無による差は認められなかった。

3. 2 : 植栽150日目に掘り取り、根を測定した。結果は、図-2に示すように、菌根の有無による差は認められなかった。菌根の有無による差は認められなかった。

4. おわりに

共生微生物の内、根菌は、荒地の緑化に役立つ。菌根の有効性を確認し、荒地の緑化に役立つ。

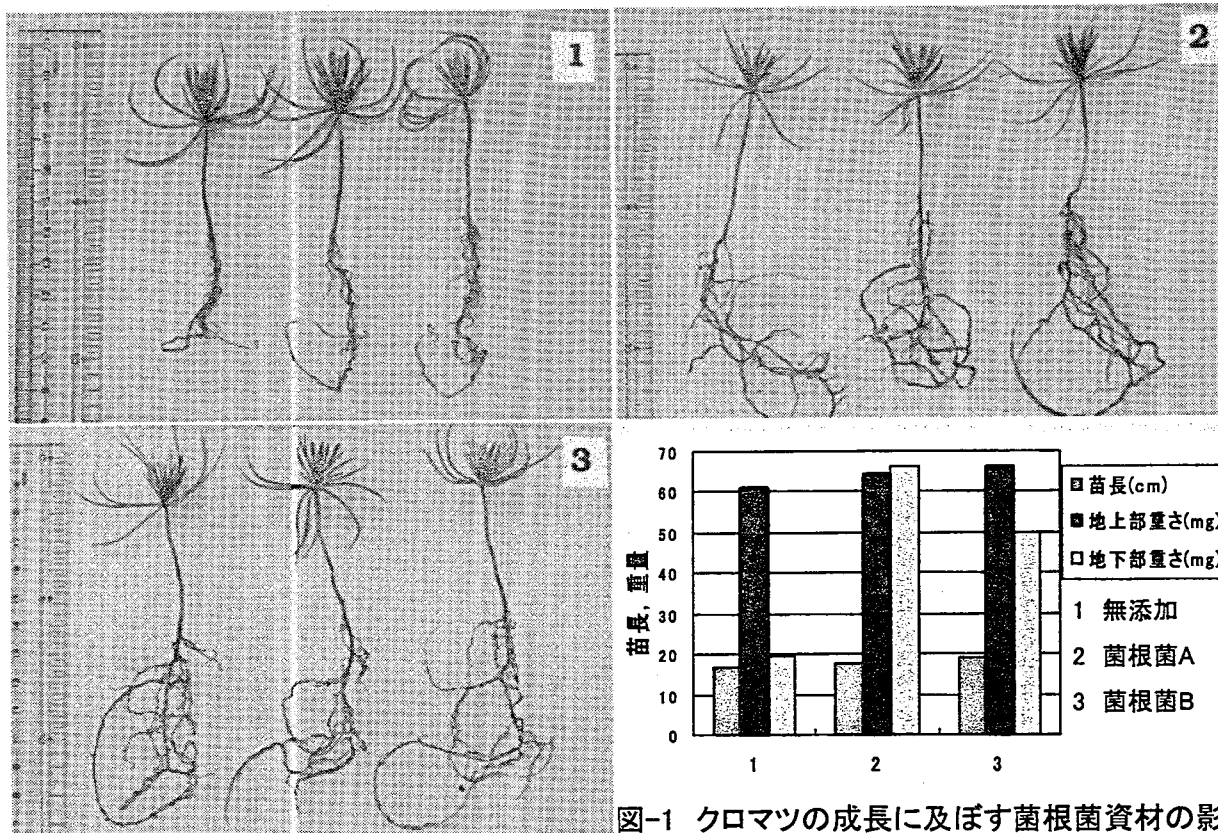


図-1 クロマツの成長に及ぼす菌根菌資材の影響

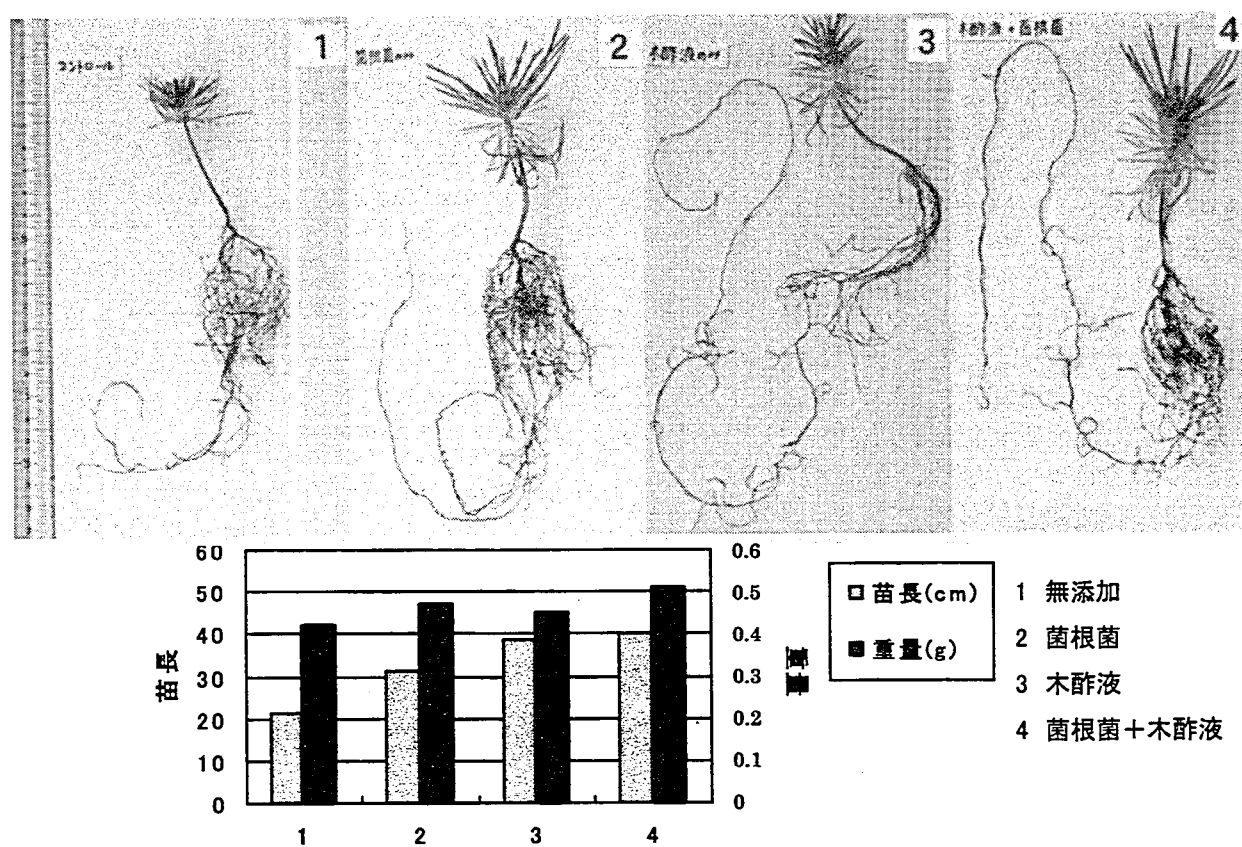


図-2 クロマツの成長に及ぼす菌根菌資材と木酢液との影響